

数学講読（2年生前期）

水曜日 13:00～14:30, 3-210教室

担当：古畑 仁

2018年4月18日

■ 1 テキスト

[1] 中島匠一, 集合・写像・論理 — 数学の基本を学ぶ, 共立出版

[2] J. Jost, Postmodern Analysis, Springer

[2] は, <https://link.springer.com/book/10.1007/3-540-28890-2> からダウンロード可能 (学内のみ). なお不明な点等は, 石川剛郎, 論理・集合・数学語, 共立出版あるいは神保秀一・本多尚文, 位相空間, 数学書房なども参考にするとよい.

■ 2 準備の仕方. (1) テキストを読んで内容を理解する. 当番の2人で担当箇所を分担する. 各自中断がなければ担当箇所を30分で黒板で説明できるように再構成する. 微分積分学や線形代数学の授業で気に入ったものをまねるとよい. 再構成しても, テキストの見出しの番号を使用する. たとえば, 3.4 と 3.5 の間に新たに何かを加える必要があれば 3.4a などと番号をふること. (2) 板書用ノートを作成する. テキストは読ませるための表現になっているが, 黒板は見せるための表現が望ましい, テキストをそのまま写してはいけない. セミナー時にはノートを持つことは許可するが, テキストを手にとってはいけない. (3) リハーサルをする. 時間にふさわしい分量か確認し, 必要ならノートを修正する. 黒板に書きながら説明ができるようになることが望ましい.

■ 3 提出物と評価. (4) 担当の翌週に, 上記 (2) のノートにセミナー時に加えられた修正や改良を補筆したもののコピーを提出する (レポートの形式, すなわち読ませるための形式になっている必要はない. ただし, 丁寧な字で書くこと. 受講者に配布する場合がある).

(4) およびセミナー時の討論への参加状況を総合的に判断して, 評価する.

■ 4 予定と分担

4/ 25	[1] 3.1 - 3.3		
5/ 2	3.4 - 3.6		
9	3.7 - 3.9		
16	3.10 - 3.11		
23	4.1 - 4.3		
30	4.4 - 4.6		
6/ 6	4.7 - 4.9		
13	7.1 - 7.2		
20	7.3 - 7.4		
27	7.5 - 7.6		
7/ 4	[2] §4 or §7		
11			
18			

(以上)